

令和3年度仙台市若林区まちづくり活動助成事業  
実績報告および質疑応答（質疑まとめ）

《報告の流れ》

1 団体 8 分で発表。1 団体ごとに評価委員による質疑をし、最後に評価委員長から総評を得る。

連坊オモシロ街あるき

連坊商興会青年部

- Q 街あるきを通して、町内の方々の機運が高まったり、盛り上げていこうという声は上がったのか。
- A 活動当初は、そのようなことは想定していなかったが、活動を続けていく中で、お願いをしていないのに町内会有志の方が手伝いを名乗り出てくれる場面があった。
- Q 作成した動画は YouTube にアップしているか。
- A アップしている。
- Q 既存の居住者の方はもちろん、新しい居住者の方も参加して下さったとのことであるが、参加者の内訳を教えてください。また、報告書にある方以外に、県外からの参加者はいたのか。
- A 数は把握していないが、青葉区、太白区、宮城野区からの参加があった。県外の居住者で報告書の例の他に把握している方はいない。
- Q 保険料が高いように思うので、他の団体が使っているものも参考にしてみてもいいか。
- A 他に比べると、今回の保険の内容は手厚いものを選んだ。20 人を超えると安くなるが、コロナ禍であり人数を集めるのも悩みどころである。
- Q 事業を行ってみての問題点や課題として、マイクの音がうるさい、情報が不足していた、街あるきのあとにもっと話を聞きたいとの声があったとのことだが、その 3 点を考えて、荒町市民センターとの連携は考えているか。
- A 以前宮城野市民センターの街あるきの講座に参加したことがある。その際に、連坊オモシロ街あるきの話をしたら、荒町市民センターに相談してみてもいいかと助言を受けて、館長に相談していたところであった。
- Q 広報はチラシだけですか。どのようなかたちで人が集まってきたのか教えてください。
- A 主にチラシのみで広報をおこなった。1 回目は自作のチラシを配ったが、あまり反響がなかった。2 回目からは業者をお願いしてデザインしてもらったところ、反響が大きかった。SNS も少しはやってみたが、それなりの効果だった。今回は、参加してもらった方に LINE を教えてもらい次回以降のイベントの情報を流すような工夫をした。
- 意見** →実は、Google で「連坊オモシロ街あるき」を検索してもヒットしなかった。回覧板だけでこれだけ集めたのは驚いた。今回、地元に住みながら、地元のことを知らない層がしっかりいることがわかったのも大きい成果の一つだと思う。地元で詳しい方と一緒に、地元をより知るための企画は、どんどん発展的に出来そうだと思うので、今後も活動に期待している。
- A 最初に企画したときは、自分たちで作った地図で街あるきをしようと思っていたが、評価委員から「街歩きの専門家に頼んでみては」とのアドバイスを頂いて、実際にやってみるところ今回の結果に繋がった。このことから、内側だけでやっていたのはそれだけなのかな

とつくづく思った。

**助言** 京都で「まいまい京都」という活動をやっている団体がおり、街歩きが非常にうまくいってあります。行政からの支援を受けずに完全に自立した活動をし、年間何百というコースを開いている。以前いただいた資料をコピーして持ってきたので、是非所々参考にしていただければと思います。

## 貞山運河の魅力アップ事業

### 貞山運河倶楽部

- Q どのような方が参加したのか。また、どのような感想が寄せられたのか。
- A 知人に呼びかけて、1回目はほとんど人脈で人を集めた。河北新報やメンバーのFacebook等でも広報したが、コロナの影響なのか、集客が難しかった。イベントについては、終日の開催であることや、参加費が子供でも一律1,000円であることがネックであるとの声があった。
- Q イベントを、半日に圧縮して開催することは今後考えているか。
- A 考えなければならぬと思っている。演劇だけの集客は難しいとは思っており、舟遊びとセットにすれば来てくれるのではないかと甘い考えもあった。やっぱり演劇は重いので、もう少し軽い内容のものを検討しようと思う。また、演劇講師の方も、最初は一緒にやろうと盛り上がっていたが、実際にやってみると演劇と貞山運河の関連付けが難しいと話していた。悩んだ結果、2回目は運河に向かってしじみ採りのパフォーマンスを入れた。悩みながら手探りでやっていたのが正直なところである。
- Q 名取市の市政だよりに載っていたか。
- A 名取市と「貞山運河未来会議」という事業で連携しているので、それで紹介してもらった。
- Q お昼は皆さん持ってきたのか。昼休憩は何分ほど取ったのか。
- A お昼は参加者持参とし、昼休憩は1時間取って、音楽会を開催したりした。会場としたセンターハウスは飲食禁止なので、食べる場所には苦労した。
- Q 親子で楽しめそうなイベントだと思うが、子供の参加率はどのくらいだったのか。
- A 子供も一律1,000円としていたので、あまり参加はなかった。
- Q 学生ボランティアはいたのか。
- A Rerootsさんのほうから4人ほど派遣してもらった。
- 意見** 少し盛り沢山すぎたのかなという印象。「魅力アップ」の事業であるが、たくさん詰め込んだ結果、どのくらい魅力がアップしたのか疑問に思う部分もある。企画を立てる際には、目的とゴールをある程度定めて反省をすると、次に繋がりやすいと思う。

## 地下鉄を利用した逸品探し街歩き体験ゲーム

### 東北被災地の食を応援する団体 U-MY・ONE

- Q 前回、ゲームをもっとシンプルにしてみてもとの意見もあったが、今回、前回と変えたところはあったか。
- A 前は、往路も復路もサイコロを振って行き先を決めたが、今回は、参加者が歩き疲れる様子も見て、復路については、往路で寄れなかったお店を自由に寄っていいという形にした。

- Q 2月開催のイベントは68人集客したとのことであるが、キャパは大丈夫なのか。
- A 問題ない。ボランティアもすでに10人以上集まっている。68人という数字は、オミクロン株の影響でキャンセルが相次ぐのではないかと読みで多めになっており、実際3日前に、1組2名のキャンセルがあった。
- Q 企画のアイデアは、非常に若者受けする面白いものなので、今後大学生や若者に口コミで広まっていけば人数が増えていく可能性はあると思う。そうなったときに、団体としての組織づくりや、今後継続していくことを考えると、協力してくれているお店からの協賛金をもらう等、今後の団体運営について考えていることがあれば教えてほしい。
- A 友人知人を中心に、企画の段階から協力してくれている人たちがいるので、その人たちを団体に呼び込んで運営に参画してもらいたいと思っている。
- Q 第4回目の参加費が少ないのはなぜか。また、支出の部でホームページ作成費が結構な額になっているが、どういう目的で、どのようなものを作成したのか教えていただきたい。
- A 第4回目については、学生参加ということで、参加費を500円にして、協賛金で補填することを当初から検討していたため、そのようにした。なぜ学生だけ安価にしたのかについては、コロナウイルス感染症の影響で学生生活が虐げられていることを感じ、少しでも学生に楽しんでほしいとの気持ちからそのようにした。ホームページは現在作成中で、もう少しで完成する予定。そもそも、イッピンハンターのホームページを持っていなかったため、広告・告知目的で作成した。まずは、「イッピンハンター」とは何か、どうやったら楽しめるのかを簡単に網羅したものを作成できるよう心掛けて作っている。ゆくゆくはホームページを見て、参加に繋がればと思っている。
- 意見** →是非イッピンハンターの内容とともに、若林区の魅力をどんどん盛り込んだホームページにしてほしい。
- Q ゲーム性を入れたことによる反響を教えてほしい。
- A アンケートで、11件のうち4件は、ゲーム性に対して楽しかったとの回答であった。特に子供はサイコロの出目で一喜一憂しており、とても盛り上がった。学生ときは、サイコロにマイナス1の目を入れたことで、盛り上がりにつながった。
- Q リピーターはいたのか。
- A 11/13、27のイベントについては、リピーターなし。2月のイベントについてはリピーターが4~5人いる。イベントの内容が一緒に新鮮味を感じないだろうとの理由から、一度参加された方にご案内はしていなかったが、「楽しかったので友達を誘って参加したい」との理由からリピーターになってくださったため、今後は一度参加された方にもご案内をしていきたい。2月のイベントでは、新しいお店を4店舗ほど増やした。こういった取り組みで、リピーターに繋がりたいと考えている。

## 荒町エリア魅力発信事業

### 荒町エリア発信隊

- Q 3年間を通じて、組織や仲間が広がっていく様子がよくわかる素晴らしい報告だった。オリジナルソングのお披露目がまだ出来ていないとのことであるが、仮にお披露目をしたあと、どのように活用していきたいのか、構想があれば教えてほしい。
- A 子供たちに歌ってもらいたいという思いがあるので、商店街のお披露目のあとは、小学校や児童館でお披露目の機会を設けたいと思っている。小学校の校長先生からも、「お昼休

みの給食の時間に流します」とのお話を頂いており、まずは子供たちから広めていこうと考えている。

- Q 報告書の最後に記載されている「東北学院大学との連携」について、是非詳しくお伺いしたい。
- A 荒町エリア発信隊は3つのプロジェクトをやったが、一番残したいと思っているのは「動画制作プロジェクト」で、学院大生を巻き込む力を持っていると思っている。動画制作プロジェクトの核になっているメンバーは全員、来年度も継続していきたいと話しているので、彼らを中心とし、また、新規の学生も呼び込んで、学生主体の動画制作塾を開催したい。荒町市民センターと現在打ち合わせ中であるが、共催のようなかたちでやっていきたいと思っている。その他、リアルに参加できない人のためにオンラインの講座も立ち上げたい。

先ほど各団体の皆様から、「とにかくコロナで苦労した一年だった」とのお話をいただきました。その中で、皆さんからは何とかコロナの合間を見ながらこのプロジェクトをやっていこうという意思を感じました。本当にありがとうございました。私も色々な団体と関わりがありますが、この2年間を見ていると、仙台の市民活動が弱まってきている印象を受けます。

理由はいくつかあるのですが、一つはやはりコロナの影響が非常に大きいように思います。今、リモート会議をする機会が多くなっておりますが、リモートですとなかなか通じないものや感じられないものもありますし、人との関係性を作りにくくなるということを実感しております。そういった意味で、コロナ禍での2年間というのは皆様もご苦労されたと思いますし、今後もこの状況が続くような心配がございますので、リアルの場がどんどん奪われていくということに私自身少し危機感を持っております。

二点目は、震災から10年が経過したということだと思います。この10年間を振り返ってみますと、特に最初の5年間は、世界中から色々なお金や人、それに伴って復興のためのノウハウがこの被災地に集まってきました。しかし10年一区切りということで、そういったものがどんどん引いていってしまっているところに、弱体化している理由があるのかなと思っています。

三つ目は、市民活動の事業承継にあると思います。抽象的な事業承継というのは今非常に問題だと言われていますが、市民活動の事業承継もやはり非常に難しい問題でして、この部分の世代交代がうまくいくのかどうかということがやはり課題の一つとしては大きいと思います。コロナが今後どうなっていくのかはわかりませんが、なくなるとすれば、with コロナの社会の中でどのように市民活動やまちづくりを行っていくのかというのがまさに今突き付けられている問題であります。現在、コロナで困っている方々が非常に増えています。連日暗いニュースや嫌なニュースがたくさん出ており、日本社会は段々と劣化してきているのではないかというような思いもあります。そのような状況で、今、知恵を絞って、皆様方のように色々行動を起こしていくことが、昨今の社会において求められていることだと思っております。

「サードプレイス」という言葉があります。1番目の場所は家庭で、2番目の場所は職場や学校であったりします。家庭や職場にストレスの多い現代社会で、リラックスできる居心地の良い場所というのが「サードプレイス」です。そういった場づくりをしていくというのが、市民活動の一つの役割なんじゃないかなと思っています。今後も是非皆さんの活動、活躍にご期待をしたいと思っておりますし、コロナウイルスのオミクロン株が大変な状況になってきていますが、その間隙を縫って、地域を盛り上げていただければと思っています。本日はどうもありがとうございました。